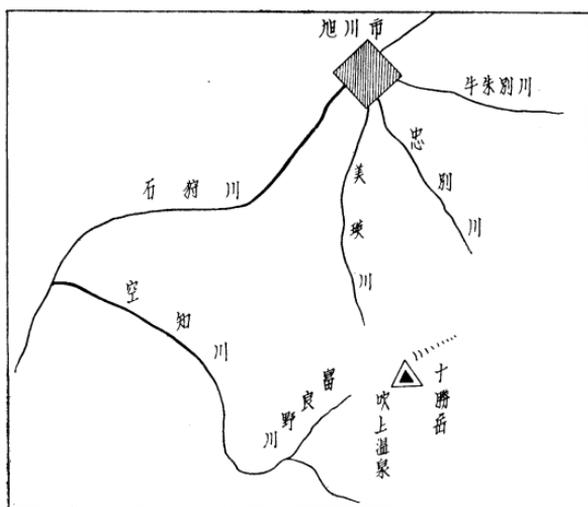


天	然	排	水
を	流	す	
	美	瑛	川

江 口 弘



美瑛川は十勝岳にその源を發し、流下して旭川市において石狩川に合流する一河川である。筆者は以前に、この美瑛川について、石狩川の合流点附近には山女魚が棲息しているが、美瑛町附近には全くないし、鮭も隣の忠別川には入るが、この川には入らないという話を聞いたので、旭川に行つた時に、ついでに調査したことがある。

昭和23年10月15日、美瑛市街附近の河水はPH 2.0の強酸性を呈し、硫酸の含有量は126.4ppmという多量であることがわかつた。硫酸量は火山、温泉などの直接の影響、または硫化金属鉱山排水の一指標として扱ひ得るものである。すなわち美瑛川は十勝火山群の温泉水を集めてくるために、強酸性を呈し、硫酸の量が著しく大きな天然排水を流している河川である。そのため魚類の棲息は不可能である。また、農業の方では、この水を長く使つているため土壤が酸化していわゆる酸性土壤となるため、収量はへつている状態である。しかし石狩川本流

にくらべて、その水量が著しく少ないので、本流に与える影響は無視し得る程度である。本道ではこの美瑛川の外、富良野川(十勝火山)、セセクベツ川(川湯温泉)、登別川(登別温泉)、長流川(硫黄山)、豊平川(定山溪温泉)などが、いずれもこの種の自然汚染を被つているが、特にセセクベツ川の流入による屈斜路湖の酸性化は注目されている。すなわち強き酸性水の流入は湖水のPHを低め(PHは全層5.0内外となつている)、湖の生産力を極度に低下させている状態である。このため近時、地元弟子屈町ではこの湖水を淡水魚の養殖に適する水質にしようとする要請が起きているようである。

さて、最近、富良野地方の天然鉍害の処理問題が中央で反響を呼んで、総理府資源調査会の基礎調査の実施となつたわけであるが(読売新聞31.3.31)、この鉍毒の被害を空知郡上富良野町の例からみれば、昭和13年の開田当時1700町歩で反収2石2斗1升と道内平均より1.2

斗下回る程度であつたものが、同19年には1,600町歩で反収1石8斗1升、同28年には1,400町歩で反収1石2斗4升と当初の半分に低下し、水田も畑も転換されたり、放棄されてしまった。また、最近の調査では、この毒水を使つている水田と普通の水を使つている水田との収量差は、反当り1俵から1俵半ともなつていて、しかもこれだけの収量を確保するための施肥量は普通用水を使つている水田よりも5割も多くなければならないというのである。それでこの地方では数年前から毒水処理を各方面に陳情し、一般開発とからんだ調査が道総合開発委員会の手で昨年より行われていたものが、このほど実現するはこびになつたものである。場所は美瑛川の上流、上川郡美瑛町三沢に、総工費1億3千万円の酸性水処理槽がつけられることになり、二カ年計

画で今年はその第一次工事に着手、来年一杯で完成されるということである。

現在、酸性水の処理方法として一般に行われているのは主として生石灰、または硝石灰を混じて酸性を中和する方法であるが、美瑛川の場合も石灰石中和が採用されるようで、酸性水を水路に導き淡砂池で一度土砂を除いてから、この槽を通して硫黄分をなくするもので、処理槽は幅30m、長さ80m、槽中に直径2cmから3cm大の石灰石を一杯つめて酸性水を中和させるので、毎秒2tonの水を濾過する能力をもつものであるということである。とにかくこうした大量の天然排水が巨費を投ぜられて、大規模に処理されようとするのは、わが国では最初のことでありその成果が期待される次第である。(31. 7. 16)

(道調査課長)

孵化事業の改善推進運動

北海道鮭鱒保護協力会連合会では現在「鮭鱒孵化事業の実態を基盤として事業の改善によつて効果を拡大することに協力する」趣旨をもつて、広く改善研究の発表を求めている。

事項は孵化事業全般で、つぎのような点があげられている。

1. 親魚の保護と密漁の防止並びに取締
2. 親魚の捕獲並びに蓄養
3. 採卵、卵子運搬、移殖、孵化
4. 稚魚の監理、放流稚魚の保護
5. 諸施設、孵化器具
6. 災害、孵化悪条件の対策
7. その他関連ある事項

これらの点について、改善の案、または改善努力の業績、あるいはまた効果が予想出来ても実現困難な場合などについて連合会宛に内容を知らせてほしいとしている。

これらの発表に対して連合会では、その事項によつて、孵化場の関係官に検討を依頼し、関係者に衆知させ、意見の交流をはかる。また、記念品を贈呈し、感謝の意を表するとともに、その実現をはかるとしている。

こうした研究は一応2月末日の締切となつているが、連合会では第1次的な運動としており、なお、継続することを考えている。